

# エコガーデンシティ構想に基づく取組状況



令和4年8月 御殿場市エコガーデンシティ推進協議会

# 御殿場市エコガーデンシティ構想

## 1. 目的 【エコガーデンシティの実現】

世界遺産富士山の麓にふさわしい、優れた環境と景観の形成と産業・経済振興が好循環するまちの実現を目指す。

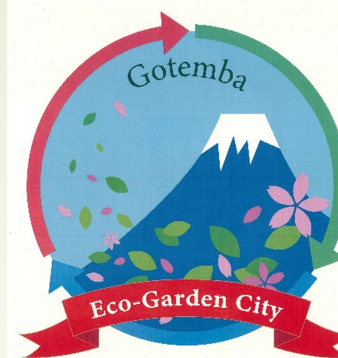
## 2. 手法

本市の地域特性や恵まれた自然・社会条件を活かし、産学官金の連携と市民参画により、先端技術も活用しながら環境と景観の改善に向けた取組を継続的に進めることにより、地域経済活性化や市の魅力・ブランド力向上の実現を図る。

### 《本市の地域特性、自然・社会条件》

富士箱根伊豆観光交流圏の中心にあつて、箱根・富士五湖方面への交通結節点に位置する。東京から約80kmとアクセス良好であり、交通便利性の良さから多くの企業進出がある。

富士山の湧水や伏流水・豊かな緑・清浄な空気など恵まれた自然とともに、後に世界遺産となった富士山の眺望を求め別荘文化が開花するなど、良好な環境と景観を有する観光交流の拠点都市。



エコガーデンシティシンボルマーク  
(御殿場高校生活創造デザイン科生徒作成)



# ◎エコガーデンシティ化の推進サイクル～環境・景観形成と地域経済活性化の好循環～



## エコガーデンシティ構想【重点項目】

優れた環境と景観のまちづくりを通じて先端技術開発等の産業振興や観光交流客増加などの地域経済活性化を実現するため、6つの重点項目を設定しています。

- ① 世界遺産富士山の前庭にふさわしい景観の形成
- ② 自然との共生・里山づくり・生物多様性の確保
- ③ 再生可能エネルギー導入・省エネなど地球温暖化対策の推進
- ④ 環境・景観保全を支える先端技術の活用（IoT、AI、ドローン等）
- ⑤ 地域資源を活用した商品開発やエコツーリズムの推進
- ⑥ 6Rの推進など循環型社会の形成



## 【連携プロジェクト】

1. 箱根山系の保全と活用（富士山ビュー活用）①②
2. 富士山桜いっぱいまちづくり①⑤ ※丸数字は重点項目
3. 家・庭・コモンスペース創造によるコンパクト・ガーデンシティ化①②
4. ハイブリッド車用充電電池リサイクル③⑥
5. バイオマス利活用推進③⑥
6. スマートファシリティ普及促進③④
7. マイクロ水力発電普及促進③
8. 御殿場型エコファーム⑤
9. ドローン等活用による環境保全・防災等推進④
10. 水素ステーションの活用③ ※地域のニーズに応じて新たなプロジェクトを追加



重点項目に基づき、産官学連携と市民参画により次の具体的なプロジェクトを推進してきたが、総括を行う。<sup>3</sup>

## プロジェクト1 箱根山系の保全と活用 (富士山ビューの確保)



豊かな自然と景観を有する箱根山系の保全と活用を進めます。特に、箱根やまなみ林道（広域基幹林道北箱根山線 二の岡～神山地先）周辺からの富士山眺望を確保し有効活用します。

⇒企業版ふるさと納税を活用し、看板及び駐車場の整備が完了  
今後、眺望できるように整備し、その他の富士山の  
ビュースポットと併せて国内外の観光交流客へアピール

⇒主要プロジェクトへ移行。



ビューポイント整備候補地の1つからの眺望  
(立木伐採後)

## プロジェクト2 富士山桜いっぱいまちづくり



世界遺産富士山にふさわしい美しい桜景観づくりに市内全域で取り組む。取り組みのシンボルロードとして**団地間連絡道路**沿道に延長14.5kmの桜並木を整備するほか、市道7540号線や新東名側道への植栽など、富士山を背景に桜が咲き誇るまちづくりを推進する。

⇒団地間連絡道路沿道の桜並木は今年度中に整備完了。  
今後、市内沿道の桜が維持されるように整備を続ける。

⇒連携プロジェクトとしては完了。市としては推進を継続。

## プロジェクト3 家・庭・コモンスペースの創造による コンパクト・ガーデンシティ化



市街化調整区域の豊かな自然環境を活かした形での宅地分譲を進め、美しい暮らし空間を実現

- ①印野地区「星空の郷 御殿場高原・堀金」
- ②玉穂地区「ふじ桜の郷 御殿場高原・大子山」

⇒まちづくりガイドラインにより色彩の  
調和や緑化など総合的に景観形成を誘導

⇒連携プロジェクトとしては完了。市としては推進を継続。



## プロジェクト4 ハイブリッド車充電電池リサイクル

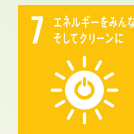


CO<sub>2</sub>削減効果が高いハイブリッド車の普及が進んでいるが、今後大量廃棄時期を迎える使用済みリチウムイオン電池（充電電池）の適正処理・リサイクルが社会課題となっており、使用済みのハイブリッド車のリチウムイオン電池を効率的かつ安全に回収するための輸送方法の検証等を行い、経済合理性の成り立つシステム構成及びビジネスモデルの実装化に向けて検討。

⇒株式会社リコー環境事業開発センターの実証実験で急速充電器の市場予測から、事業化が困難ということがわかった。

⇒連携プロジェクトとして完了。

## プロジェクト5 バイオマス利活用の推進



### 1. 木質バイオマス利活用

【リコー環境事業開発センター・秩父宮記念公園】

⇒バイオマスボイラーの熱利用（冷暖房・給湯）による地球温暖化対策への貢献。

### 2. 生ごみ堆肥化

⇒NPOエコハウスごてんば 及び 御殿場市一般廃棄物処理事業協同組合は、家庭生ごみ及び事業系生ごみを回収し、「ゆめかまど」で堆肥化し好評を得ている。

※回収地域は森の腰・湯沢・新橋・萩原の一部。

⇒連携プロジェクトとしては完了。市としては推進を継続。

## プロジェクト6 スマートファシリティ普及促進



リコーの先端技術との連携：自動制御によるオフィスの省電力とコスト削減のための実証実験

⇒市内への波及を促進するため、令和3年2月から市役所本庁舎4階通路で稼働中

※稼働の様子は誰でも見ることが可能。

⇒連携プロジェクトとしては完了。市としては推進を継続。

## プロジェクト7 マイクロ水力発電普及促進



### 【実証実験の推進】

小水力発電よりさらに小規模な水力発電（発電出力10kw以下）

条件： ・水量20ℓ以上/秒 ・落差3～5m  
※リコー・名古屋大学・インターフェイスラボの共同開発

⇒市内二子で実証研究された技術が他のシステムへ活用

⇒連携プロジェクトとして完了するが、実証実験は継続。



御殿場市二子の実証実験箇所の様子

## プロジェクト8 御殿場型エコファーム

御殿場の環境を活かして生産された食材の地産地消や販路拡大に向けた検討

- ①成分分析により地元食材の特性を把握し、他地域産との差別化を図る
- ②生産・加工・流通・販売まで一貫した食品安全の提供

⇒連携プロジェクトとして完了。





## プロジェクト9

# ドローン等活用による環境保全・防災等の推進

加藤学園御殿場キャンパスが多様な地形要素（森林・裸地・河川・標高差など）や建物配置を有していることに着目し、ドローン等による3次元測量や森林保全等の実証研究に協力している。

令和2年7月には、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の研究開発業務「データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究：バーチャル物見櫓（V-THUNDERBIRDS）」をASITE・御殿場市・千葉大学共同で受注。現在、この拠点で研究開発を行っている。

⇒主要プロジェクトへ移行。

## プロジェクト10 水素ステーションの活用

環境に優しい次世代モビリティの代表であるFCV（燃料電池自動車）用の水素ステーションが2020年4月に開業

FCVは走行時にCO<sub>2</sub>を一切排出せず、運輸部門のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献し、自動車関連産業の振興や災害時の電源供給にも寄与することから、この究極のエコカーであるFCVを環境教育等にも活用。

⇒連携プロジェクトとしては完了。



ドローンによる加藤学園御殿場キャンパスの3次元モデル  
（千葉大撮影・RESTEC作成）

